

# 平成15年 資料

## 「土壌の性質をかえてみましょう」・「お礼肥の重要性」

### 1. 土壌の性質を変えてみましょう

土壌は、ただ単に植物の生育を物理的に支えている場所ではなく、また単に風化した鉱物の粒子が集まったものでもありません。植物養分、有機物などが分解あるいは合成され、微生物・小動物などが生育し、相互に影響し合っている場所です。土壌中には1万種にも及ぶ土着微生物が常に拮抗・共生・競合を繰り返し、バランスを保って生息しています。主に同種の野菜作物を同じ畑に毎年栽培していると（連作；植物種類の単純化）、作物の放出する分泌物や吸収される養分が偏り、土壌中の養分や菌のバランスが悪くなって作物が生育しにくく成ります。そして右表のような病気が発生して収穫に影響を与えます。これが連作障害とも言えます。果樹園にても、どうも生育が悪く植え替えても枯れる、また紋羽病が多発するなど問題ある土壌がみられます。

| 病名       | 病原菌名            |
|----------|-----------------|
| 苗立枯病     | 糸状菌；リゾクトニア、ピシウム |
| 疫、褐色腐敗病  | 糸状菌；フィトフトラ      |
| つる割、萎凋病  | 糸状菌；フザリウム       |
| 半身萎凋、黒点病 | 糸状菌；パーティシウム     |
| 根コブ病     | 糸状菌；プラスモディオフォラ  |
| 青枯、軟腐病   | 細菌              |
| モザイク病    | ウィールス           |

これらを改善するには、土壌中の微生物を十分活用することが有効な手段の一つであります。すなわち、**土壌中の悪玉微生物を退治する良い微生物＝善玉微生物を含んだ資材を施用し、根気よく善玉菌の密度を増やし（培養）土壌の性質を変えることです。**更に、**微生物が繁殖するために適した「餌」；有機物も投与することが大切です。**この餌となる有機物に注意しなければなりません。いわゆる堆肥であれば何でも良いということは絶対ありません。牛糞堆肥と称して少しばかりの牛糞に食品残留物や木屑など混合したものや、鶏糞と木屑など混ぜたものなど粗悪堆肥は逆に悪玉微生物の餌になりそれが増えてしまう。また重金属や化学物質などの含有が心配され、環境汚染の原因になりかねない。中身のしっかりした物を使用すべきです。

以上を考慮した資材として、当店にて推奨しております肥料は、有益微生物入「ライフアーズ」、モンモリナイト粘土を含んだ「ソイルサポート」、「完熟牛・豚糞堆肥」、濃縮堆肥「パフミン」などがあります。ぜひご利用ください。

### 2. お礼肥の重要性

礼肥は「今年1年間、お疲れ様！」と、**弱った根や葉、樹体の樹勢回復だけでなく、翌年の生育（発芽・開花・結実等の初期成育）を大きく左右する貯蔵養分の蓄積を増加させるための施肥**です。

| 目的 | 1) 樹勢の回復  | 2) 秋根の発根促進 |
|----|-----------|------------|
|    | 3) 早期落葉防止 | 4) 貯蔵養分蓄積  |

- 礼肥の施肥時期**；果樹の種類によって異なるが、**秋根が活動している9月～10月のうちに早めに施肥**する。梅・すもも・ももなどは、生育が旺盛な7～8月にはすでに収穫が終了し果実に養分を送る必要がないため枝が伸張しやすい。そこで窒素はあまり必要ない。収穫が10月以降になる柿・りんご・ぶどうについては、収穫前の施肥でも品質に影響ありません。収穫後では落葉期となり、礼肥の目的でもある貯蔵養分の蓄積ができなくなり効果が低下します。

《P. S》秋根は気温が30℃を下回ってくる頃から伸張し始める。葉が健全で葉からの同化養分と根からの肥料成分との結びつきで栄養物質の蓄積が多くなる。しかし**秋伸びしている葉が少ない樹に礼肥を施しても窒素が消化できないばかりか、かえって枝伸びを助長してしまい充実不良になる**こともある。果樹の種類、枝伸び葉のつき具合など、樹の状態を見て使う資材や量を考慮する。

- 礼肥の種類**；**一般に窒素が主になる。また葉・樹の状態を見てリン酸・苦土のみ施肥する場合**もある。  
「千代田化成」、「NK化成」、「硝安」など10a当2～3袋 もしくは「鶏糞」10a当10～20袋  
葉の少ないときは「PK化成」、「マグヒーロー」10a当2～3袋 が適当である。